平成 26 年度庭野平和財団活動助成

アフリカ平和再建委員会（ARC）

「マイクロセービング事業を通じた収入向上と民族和解のプロジェクト」

報告書

１．実施事業の概要

本団体は、ルワンダの現地 NGO である ARTCF（ルワンダ・キリスト教女性労働者協会）を通じ、戦争寡婦の職業訓練事業を 2000 年～2004 年にかけて実施してきた（貴財団の助成も受領）。

本団体と ARTCF は、その後も助成の所得向上のための協力を行っていたところ、ARTCF が 2009 年～2013 年にかけて、ルワンダの最貧困層の村を対象に、マイクロファイナンス（小口金融）、マイクロセービング（小口貯蓄）を実施していることを知った。

これまでに ARTCF は、9 つの郡（District）で事業を展開してきた。一つの郡の対象者は約 9000 人前後。25 人前後の村民を 1 つのグループにまとめ、Micro Saving や Micro Credit の小規模ビジネスを奨励している。一つの郡につき、3 千万ルワンダフラン（約 500 万円）の予算規模。各 District に Local Coordinator を置く。各グループの事業の記録は、グループ内で互選された担当者が行う（互選方法は推薦や選挙など方法はグループで決める）。同時に識字、計算の指導も行う（村で教育を受けたものに月に 1 万～2 万ルワンダフラン程度の謝金を出して指導してもらう）。

ARTCF は各コミュニティでグループを組織させ、ひとつのグループのメンバーは約 30 人（主に女性）。6 ヶ月～9 カ月間をサイクルとして、貯蓄した金をメンバーに配分する仕組みを作っている。

積み立ては毎週行い、マイクロセービングの一人の積立額は一口（Part）200 ルワンダフラン（約 30 円）で、複数口積み立てできる。積立金を基にメンバーが小規模ビジネスを行い、その収益を一定の割合で積立金に納入する。小規模ビジネスの例としては、野菜の栽培、家畜の飼育、手工芸品作り、生活雑貨販売店、移送のためのガソリン代など。第二サイクル以降は銀行に貯蓄して利息を得ることも行う（メンバーは識字、計算ができないものが多いので、拙速に物事を進めていない）。セービングを行ったメンバーは、期間終了後、積立額の 1.5～1.8 倍の配分を得ることができる。メンバーの事業の成否が貯蓄総額に影響を与えるため、メンバー間の意見交換や協力が行われており、このような同一目的のための協働の機会を促すことで、民族間の融和を促進していく。

本申請事業では、このような取り組みを南部州のニャマガベ郡で新規のグループを創設していくこととした。

２．実施事業の経過

- 2014 年 9 月、庭野平和財団の活動助成交付決定を受け、ARTCF による新規グループ開設地域の選定作業を開始した。

- 2014 年 11 月初頭、小峯茂嗣 ARC 事務局長がルワンダ入り。ARTCF と事業の内容について確認し、合意のうえ、事業の共同実施の覚書を取り交わした。

- 同月、調査の結果を踏まえ、ニャマガベ郡の 5 つのセクターで 100 のグループを組織することとし、グループのメンバーに対して、セービングのシステムの研修を実施した。具体的には通帳、計算機、帳簿などの使用法や、積立金の管理の方法などを指導し、メンバー間で共有をするようにした。

No	セクター	グループ数	メンバー数		
			女性	男性	合計
1	Gasaka	30	720	180	900
2	Kamegeri	24	576	144	720
3	Kitabi	15	360	90	450
4	Cyanika	21	504	126	630
5	Tare	10	240	60	300
Total		100	2,400	600	3,000

- 同月末から各グループでセービングの活動を開始した。

- 2015 年 3 月、小峯事務局長が再度ルワンダへ出張。活動状況と和解の進展についてモニタリングを実施した。助成金で購入した備品は適正に使用され、その管理や組織運営もグループが適正に行っていることも確認した。

３．実施事業の成果

- メンバーたちの変化

ジュディス・ニランタラマ（51）

7 人の子どもをもつ女性。2002 年に彼女の夫は亡くなり、彼女が一人で子どもたちを養うこととなった。しかし貧困と飢えにより 5 人の子どもはルワンダ語の「マイボボ」、いわゆるストリートチルドレンになった。ジュディスもまた村の市場で物乞いをするようになったが、2014 年 11 月に彼女は村人たちから、村のマイクロセービング・グループの一つ“TWITEZIMBERE”のメンバーに選んでもらった。彼女はその後、グループの一員となって毎週の積立金を払う

ようになった。それだけでなく彼女はグループの積立金からローンを組んで 3000 ルワンダフラン（約 500 円）を借り、トマトや小魚を売る商売を始め、その後、バナナや他の野菜も売り始めるようになった。彼女の商売は順調に進み、ストリートチルドレンになった 5 人の子どもたちも家に帰り、彼女は家族のために食べ物や服などを得られるようになった。さらに彼女はウサギ、羊、ラジオを買うことができ、彼女と 7 人の子どもたちのための健康保険料も支払えるまでになった。

マディナ・ムロンクウェレさん（35）

3 人の子どもを持つ母親。彼女は 2014 年 12 月にマイクロセービング・グループの一つ”TUZAMURANE”の一員となった。「はじめ誘われた時は断ろうと思いました。毎週 100 ルワンダフランを積み立てるのは困難だと思ったからです。でもグループに入れば何らかのサポートがあるだろうとも思い、参加することにしました。何日か経つと、ほかのメンバーが積立金からローンを組んで小規模のビジネスを始めているのを知りました。でも私は返済できるか不安でローンを組もうとは思いませんでした。ある日、ARTCF のスタッフが来て、同じようなビジネスをすすめてくれて、1,500 ルワンダフラン（約 250 円）を借り、ウドゥセケ（ルワンダの伝統的な籠）を作る材料を買いました。私はウドゥセケを 2 つ作り、7,000 ルワンダフランで売ることができました。利息を含めてローンの返済も終え、毎週の積立金も 1 口から 4 口まで増やすことができました。これらきっかけで、村のウドゥセケ作りをする女性たちの組合にも参加するようになりました。私はさらに材料を買い足し、7 つのウドゥセケを作り、24,500 ルワンダフラン（約 4,000 円）で売りました。この収益で私は豚を 3 頭とトタン屋根を 2 枚買いました。私はこのビジネスを続け、鶏を 7 羽と携帯電話を購入しました。」その後マディナは豚 2 頭と鶏 6 羽を売り、そのお金で家のドアを 2 枚と窓のガラス、そして夫の分の携帯電話も購入できるまでになった。

グロリアス・アホバンテゲイェさん（40）

3 人の子どもの母親で、セービンググループの一つ IBYIZABIRIMBERE のメンバーである。彼女と夫は、日雇労働で生計を立ててきた。

「私はマイクロセービングに入るまではとても貧しくて、自分の生活を恥じていました。メンバー選定の際に作成された、村の貧困者のリストには、一番上に私の名前がありました。私には大きな問題が 2 つあって、栄養が足りないことと持ち家がないことでした。マイクロセービング・グループができたとき、私の人生は変わりました。今では自分の家を持つことができました。グループが私に、自分に合った働き方を教えてくれました。グループの積立金からのローンによって、家を建てる材料と工賃を支払うことができました。そしてそこで豆を売るビジネスを行うようにしました。朝には紅茶を飲めるようになりま

したし、服についても困らなくなりました。私の 2 人の息子は学費や学用品のお金がなかったので学校に行けなくなったのですが、復学させることができました。今までのように寂しくはなくなり、村の集会などでは人前で詩を朗読したりするようになりました」。

- 和解促進に貢献する可能性

本事業ではグループでの活動を通して、ジェノサイドの加害者と遺族が関係を修復して、和解いくことを目指している。その手順として、まず ARTCF のフィールド・オフィサーが和解のためのトレーニングを行う。このことによって、皆が同じ人間であるということに気付き、民族の別なく同じ「ルワンダ人」として物事を一緒に行ったり、結婚したり、パーティーに招待したりするようになるという。トレーニングだけでなく、毎週のグループミーティングもメンバーにお互いのことを知り理解する機会を与えている。

2015 年 3 月、小峯事務局長がルワンダ出張時にあるグループを訪問した際には、1994 年のジェノサイド時に暴力に加担した男性と、彼に家族を殺害された女性が同じグループを構成し、活動をしていた。そこではグループの集会をモニタリングした際には衆目の中で「謝罪」と「赦し」のセレモニーが行われた。

同じグループのメンバーである元ジェノサイドの加害者（右）と遺族（左）の和解と協働のセレモニーの様子

他にも、夫がフトゥ族であったトゥチ族の 52 歳の戦争寡婦は、マイクロセービングに参加することによって精神的に変わっていった。ジェノサイド終了（1994 年）後に夫を亡くした彼女は、トゥチである自分の両親と、夫側のフトゥの家族の板挟みに遭い、当時は誰も受け入れることができなくなったが、マイクロセービングに参加後、人は誰もが他人を

必要としていることが分かり、今では差別せず全ての人と協力できるようになったという。彼女はマイクロセービングで生活が大変良くなり、さらに彼女は現在、南部州にある 50 の村の代表として、マイクロセービング・グループを支えている。また同村のフトゥの男性の J さんも、マイクロセービング・グループに参加してから半年ほどでトゥチを受け入れられるようになったという。

４．今後の展望

今後は、生計向上と和解促進に貢献しうるこのマイクロセービングの取り組みをさらに展開すべく、新規グループの立ち上げと、そのために既存のグループのメンバーによる「普及員」の編成を行うことが必要となっている。

① マイクロセービング・グループの新設

一つのマイクロセービング・グループのメンバーは約 30 人（主に女性)。6 ヶ月～9 カ月間をサイクルとして、貯蓄した金をメンバーに配分する仕組みを作っている。積み立ては毎週行い、マイクロセービングの一人の積立額は一口（Part）200 ルワンダフラン（約 30 円）で、複数口積み立てできる。積立金を基にメンバーが小規模ビジネスを行い、その収益を一定の割合で積立金に納入する。小規模ビジネスの例としては、野菜の栽培、家畜の飼育、手工芸品作り、生活雑貨販売店、移送のためのガソリン代など。セービングを行ったメンバーは、期間終了後、積立額の 1.5～1.8 倍の配分を得ることができる。メンバーの事業の成否が貯蓄総額に影響を与えるため、メンバー間の意見交換や協力が行われており、このような同一目的のための協働の機会を促すことで、民族間の融和を促進していく。本申請事業では、引き続き南部州のニャマガベ郡で新規のグループを創設していく。

② 普及員の編成

協力団体の ARTCF は、南部州に一つのサテライト・オフィスを持ち、そこのスタッフがグループのメンバーへの指導を行ってきた。しかしながらグループ数の拡大にともない、既存のグループの中から経験者を選抜し、新規のグループに対し、運営にあたっての指導や助言を与えていく「普及員」を編成する（50 人程度)。

以上